

# 令和4年度事業報告書

特定非営利活動法人 工房あおの丘

## 1. 事業の成果

### (就労継続支援A型)

#### (1) 年間目標について

①今年度は配食のふれ愛と連携出来た事、給食厨房作業を事業の作業として提供できたことから就労継続支援A型事業としての就労活動の幅は少し広がった。

地域社会と繋がり、新たな事業展開を目指す目標についてまだまだ達成できていない。今後も法人としての運営方針を確認し、地域との繋がりを深めていくことができるよう関わっていく。

②就業規則の改訂から、時差出勤の活用実績数回あり。今後も働く仲間としての目線を忘れず労働環境を整えていく。

③それぞれの利用者が希望や目標を持って就労し、それを支援していくことを目指しているが支援学校卒業生の目標や希望をつかみにくい現状がある。今後も個別のニーズ把握に努めると共に、ご家族への聞き取りを継続。一緒に楽しみや意欲向上につながるものを見つけることが出来るよう関わっていく。また、一般就労への移行実績も上げていきたい。

#### (2) 利用実績について

・今年度4月は新卒者2名を受入れた9名でスタートとなった。ふれ愛事業との連携により新規利用者をさらに2名獲得できている。ハローワーク魚津を通しての求人や相談支援専門員を介しての利用者獲得も効果的であった。

#### (3) 職員配置について

・今年度は、上半期途中から正職1名増員となり、サービス間で利用者支援や他業務について相互に相談しながら行うことができた。また、新たな活動であるふれ愛作業支援にも入ることができている。

#### (4) 就労支援事業について ※実施しているサービスのみ

・今年度は就労継続支援A型サービスの作業として給食厨房作業、ふれ愛作業が加わった。これまで変化がなかった活動内容の幅が少し広がった。また業務を委託契約とし最低賃金の収入を確保できる見込み。給食厨房作業、ふれ愛作業ともに指定配置通り職員数を配置できているが、職員指導等において課題があり利用者支援が行き届いていない場面が多々あった。今後、職員指導の改善に努める。

・YKK作業の受注量と収益は今年度も横ばい。年間を通して受注量に変動が大きいこと、作業収益が上がらない課題が残ったままである。今後も事業活動として継続し利用者配置や受け入れ人数について状況に合わせて検討して行く事が必要。

### (就労継続支援B型:工房 あおの丘)

#### (1) 年間目標について

・記録を残す為に、4月から当日の利用者の様子やスタッフが対応した内容などを付箋に書き、ノートに貼り付けるという取り組みを開始。付箋を見て振り返りや対応について話し合う事を実施。書き留めてある事で、話し合う事が出来ており、また見返す事も出来る。

・支援ツールに関しては、利用者も作業内容によって使用するツールを把握しており、活用して作業を進めていく事が出来ている。また、支援ツールを使わずに作業スピードをあげたいと希望する利用者に対し、指定された部品の本数を正確に数える事が出来るためのアドバイスを提示する

など、利用者に合わせた支援を行なっている。

作業環境においては、今年度も作業内容に従事する利用者を充て、作業配置を行なっている。また、身体的な動線も考慮した配置を取っている。その為、作業優先での作業配置となっており、障害に特化(特に自閉傾向が強い)した作業配置は、現在のスペースでは厳しいと感じている。就労継続支援B型においても、障害の程度には開きがあり、自閉傾向が強い利用者に対する作業スペース、スタッフ配置が必要ではないかを感じる。

- ・ホワイトボードに作業進捗を記入し、就労継続支援B型の朝ミーティングで確認・把握を行なう。また作業環境を使用しやすいように整備を行なうことも随時実施。しかし、様々な作業を1フロアで同時進行している事もあり、管理体制や環境整備といった問題は時折見られるが、その都度スタッフが工夫し対応を図っている。少人数のスタッフでも、ミスなく作業を進め納品出来る体制作り、環境作りを検討し整える事が出来るようにする。  
利用者が作業進捗を意識して作業に取り組めるような工夫も必要。

## (2) 利用実績について

- ・新卒者1名、10月から新規1名の利用で、利用実人数が27名となる。しかし、入院や新型コロナウイルスの本人または家族の感染により休所する利用者が多く、利用実績に繋がらなかった。来年度も、新卒者および中途利用者の受入れを行ない、是非利用実績に繋がりたいと考えている。

## (3) 職員配置について

- ・6月からパートスタッフ勤務日数減などにより、他スタッフの作業や利用者対応における負担が重くなる。  
また、業務日誌作成スタッフが作成する際、スタッフの体制が取れないとサービス管理責任者に相談する事で、ヘルプや休日出勤を要請し、スタッフ体制を整える事が出来た。今後も早目に体制判断を行なっていく事で、安心安全な体制を整えていく。

## (4) 就労支援事業について ※実施しているサービスのみ

- ・就労に向けた支援については、障害者就業・生活支援センターの定期面接と、障害者就業・生活支援センター主催の就労準備講座参加、障害者合同就職面接会見学を行なう。  
今後も定期就労相談会などでスタッフがセンター職員と話を行ない、就労に繋がるよう支援・対応を図っていく。

## (就労継続支援B型:ラヴォーロあおの丘 with)

### (1) 年間目標について

- ・平均工賃の向上の為に、受託作業において不良を出さないような作業進行の体制を整える  
→受託作業においては、then 作業室にて異部品の混入や、数の間違い等が依然として続いている作業の進め方等については、スタッフ間でも協議して再発防止に向けた改善は行っているが、改善策が継続されないことや、なし崩し的に元のやり方に戻っていたりしている。  
来年度に向けては作業の種類を減らし、全体の作業量も減らすことで、スタッフが余裕をもって管理することができるよう、受託先と調整していく。
- ・with 作業室での作業に携われる利用者を増やし、生産量の向上を図る。また、ふれ愛の配食事業の新たな作業の抽出を行い、携わる利用者の増員を図っていく  
→with 作業室での作業に関わる利用者の数自体は増えていないが、作業への習熟に伴い、作業量は増えている。  
ふれ愛での新たな業務の抽出と人員の増加については、作業室に入っている方々にも厨房での作業を体験してもらったり、工房の利用者の中で希望している方の体験を行うなど、人員確保に向けた動きは取れている。また、そうした利用者数の増加もあって、利用者ごとにて

きることの再確認と、時間ごとの利用者の動きについてのタイムスケジュールを整理する中で、新たな作業の抽出を行えている。

・新規通所者の獲得を図っていくと共に、現在いる利用者についても再アセスメントするなどして、ニーズと提供しているサービスがずれてしまわない様気を付けていく

→新規利用者の獲得は今年度殆どできなかった。

就労支援事業を再編する中で、週課の変更を行った利用者についても、本人からの聞き取りや活動状況等から、変化を察知し、本人や家族と相談して週課の変更を戻すことができた方もいた。

## (2) 利用実績について

今年度は、新規の獲得がほとんどできず、通所が安定していない方の退所等もあり利用実績が年度当初想定していた数字に達することができない見込みとなっている

## (3) 職員配置について

事業内容の変更に伴い、スタッフの実働配置も変更になっている。スタッフ2名が増員となったこともあり、厨房、作業室に限らず、利用者支援にあたる時間を増やしていきたい。

## (4) 就労支援事業について

with 単体での授産事業としては、ふれ愛の配食事業に注力することで、収入面での増加と、作業室での受託製品の増加などを行うこと、収支の改善を行うことが出来ている。

## (生活介護)

### (1) 年間目標について

・『活動内容は、利用者一人一人の能力を生かせるように、ADLの維持向上を図り、利用者の心身の安定を重視していく』

→「能力を生かす」の面では、本人の身体状態や個々の様子に常に変化がみられており、本人のその時の様子に応じて、スタッフで対応を検討し、実施している。

「ADLの維持向上」の面では、全体の利用者での決め事ではなく、それぞれに合った対応をそれぞれのスタッフが提案し合い、共有して、支援にあたっていきたい。

「心身の安定」の面が、スタッフ態勢や支援力が安定してきた事により、利用者の安定にもつながっており、利用者個々の支援にもしっかりと対応する事ができてきている。

・『利用者の「できた」になるよう、個人ワークを提供し、環境を整えていく』

→個人ワークの項目では、「できた」の内容は、もっと増やせるように検討したい。

個々に目標が異なる（報告や取り組むことの意味合い等）ため、個々のペースや様子に応じて作業の「できた」を増やしたい。

・『各スタッフの業務内容を見直し、利用者の情報共有を常に心がけ、支援力の向上を図っていく』

→情報共有に関しては、ラインワークスを全員登録を機に活用していく。

全員会議の実施や記録をしっかりと残していくことで、支援内容の共有に繋げていきたい。

### (2) 利用実績について

・生活班は、個々の身体能力低下やマンツーマンでの対応者が増えてきているが、現行の職員で体制状態は安定している。

・就労班は、現在4名の利用者で変わらない状況が続いている。

### (3) 職員配置について

・現在の職員体制は特に不安定要素は少なく、職員同士がカバーし合っており、安定している。それぞれの職員の支援力が高まれば、利用者にとっても支援者にとっても、過ごしやすくなる。

### (放課後等デイサービス:のびの be-サポートあおの丘)

#### (1) 年間目標について

①2事業所での支援方法をより個別化していき、集団活動を提供しながらも、個々の児童に沿ったプログラムを計画していく。

→・日頃の支援では、教室スペースを基本として2事業所を分けて支援を行う環境を整えた。それぞれの事業所が集まる場所として、スタッフ、児童それぞれ意識できている状況である。

・長期休みにおいては、同じ活動内容でも午前と午後に分けて、2事業別での活動を行ったり、2事業別の活動を行う日を設定した。

・日頃の支援の中で、本人・保護者のニーズを把握して支援の組み立てを行うことを年度の初めの段階で整理。アセスメントの更新から、個別のアンケート情報を整理し、よりニーズの把握を進められるよう行った。個別の活動内容は児童がそれぞれで選択できるよう促したり、選択が難しい児童に対しては、活動の提示を行っている。現在は、個別のプログラムを実施できていない状況であるため、できなかった理由(人の配置や利用児の増加による個別プログラム実施のための環境設定)を把握し、現状での解決できる内容からアイデアをスタッフ同士で出していき、来年度はより個別に近づける支援に繋げていく。

②個別の支援に必要な環境を整え、作業療法士と連携するために、日々の支援記録や様子について共有し、支援の充実に努める。

→・食事に関することで、契約児童一名の様子を作業療法士に見てもらおう。咀嚼や飲み込み等、料理を口に含み続ける原因を考えて頂いた。食事支援に入った際には、一度に口に入れる量を少なくするなどの対応をしてもらうが、咀嚼も飲み込みも、どちらの面でも問題はなさそうとの見解であった。支援した内容については記録を more に打ち込み。情報の共有を行った。また、学校や家庭での様子を求められた際には、引継ぎのスタッフ、連絡ノート、ラインワークスを活用して、情報収集に努め、共有を図った。現状、まだまだ連携できていないため、より専門的な関わり方を行うためにも、個別支援会議の場を活用して、より個別に必要な情報の提供と情報収集を行っていきたい。

③各関係機関やご家族との情報共有を図るために、引継ぎ時のやりとりだけでなく、電話やラインワークスを活用してより率先して情報収集に努める。

→・保護者との関係性はとても良好である。連絡ノートでのやり取りの他、送迎時の引継ぎでも情報を聞き出して、児童の現状把握に努めている。話しを聞いてきた内容から、相談の方に伝えるべき内容である場合、また、緊急性が高いと判断した場合は、より詳しく電話やラインワークスを活用して情報収集を行い、関係機関への協力を求めて連携を図ることもあった。まだ情報が欲しいと思われるケースもあるが、概ね達成できたと思う。

#### (2) 利用実績について

・年間予測では、目標数値を上回るイメージであった。実際は、感染症による休業・欠席。風邪症状等による欠席が多かったこともあり、予測を下回っていた。

・年度途中での利用終了者がいたが、定期的追加希望による枠で予測人数を大幅に下回ることはない状況であった。

#### (3) 職員配置について

・スタッフの欠席による現場の調整が難しい状況があり送迎に苦慮。また、現場で見守りが必要

な児童が増えている状況もあり、目標とする支援必要人数には達していない状況である。同一の施設で2事業所体制となっていることを活かし工夫は行っている。

### (放課後等デイサービス:らいぶず-サポートあおの丘)

#### (1) 年間目標について

①2事業所での支援方法をより個別化していき、集団活動を提供しながらも、個々の児童に沿ったプログラムを計画していく。

→・日頃の支援では、教室スペースを基本として2事業所を分けて支援を行う環境を整えた。それぞれの事業所が集まる場所として、スタッフ、児童それぞれ意識できている状況である。

・長期休みにおいては、同じ活動内容でも午前と午後に分けて、2事業別での活動を行ったり、2事業別の活動を行う日を設定した。

・日頃の支援の中で、本人・保護者のニーズを把握して支援の組み立てを行うことを年度の初めの段階で整理。アセスメントの更新から、個別のアンケート情報を整理し、よりニーズの把握を進められるよう行った。個別の活動内容は児童がそれぞれで選択できるよう促したり、選択が難しい児童に対しては、活動の提示を行っている。現在は、個別のプログラムを実施できていない状況であるため、できなかった理由(人の配置や利用児の増加による個別プログラム実施のための環境設定)を把握し、現状での解決できる内容からアイデアをスタッフ同士で出していき、来年度のより個別に近づける支援に繋げていく。

②個別の支援に必要な環境を整え、作業療法士と連携するために、日々の支援記録や様子について共有し、支援の充実に努める。

→・今年度の新規利用児の中で、作業療法士の視点を必要とする方がいたこともあり、その児童の方を中心にかかわっていただいた。また、一部手を使った作業が困難な児童の様子を見てもらい、具体的に困難だと思われる場面からアドバイスをいただいた。実際に、衣類に関して、ファスナーの上げ下げが困難な人の場合、上げる場面なのか、下げる場面なのか、本人が困っている場面を整理し、どのようなやり方で困難さが解消されるか検討し、実施できた。

・支援の中で気になった内容を **more** に記録して頂いたり、学校や家庭での様子を求められた際には、引継ぎのスタッフ、連絡ノート、ラインワークスを活用して、情報収集に努め、共有を図った。現状、まだまだ連携できていないため、より専門的な関わり方を行うためにも、個別支援会議の場を活用して、より個別に必要な情報の提供と情報収集を行っていきたい。

③各関係機関やご家族との情報共有を図るために、引継ぎ時のやりとりだけでなく、電話やラインワークスを活用してより率先して情報収集に努める。

→・保護者との関係性はとても良好である。連絡ノートでのやり取りの他、送迎時の引継ぎでも情報を聞き出して、児童の現状把握に努めている。話しを聞いてきた内容から、相談の方に伝えるべき内容である場合、また、緊急性が高いと判断した場合は、より詳しく電話やラインワークスを活用して情報収集を行い、関係機関への協力を求めて連携を図ることもあった。まだ情報が欲しいと思われるケースもあるが、概ね達成できたと思う。

#### (2) 利用実績について

・年間予測では、目標数値を上回るイメージであった。実際は、感染症による休業・欠席。風邪症状等による欠席が多かったこともあり、予測を下回っていた。

・年度途中での利用終了者がいたが、定期的追加希望による枠で予測人数を大幅に下回ることはない状況であった。

#### (3) 職員配置について

・スタッフの欠席による現場の調整が難しい状況があり送迎に苦慮。また、現場で見守りが必要な児童が増えている状況もあり、目標とする支援必要人数には達していない状況である。同一の施設で2事業所体制となっていることを活かし工夫は行っている。

(相談支援)

(1) 職員配置について

・9月より常勤専従者が産休に入り、兼務者が業務を担当。

(2) 業務

・LINE WORKS グループLINEを設定して、情報共有を図ってきた。非常に良い情報共有のながれを構築することが来た、と言える。

※別紙「利用者実績一覧表(2022年度)」参照

## 2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(円)
①障がい者(児)の自立生活支援及び社会参加支援事業	・就労継続支援A型事業・就労継続支援B型事業・生活介護事業・相談支援事業・日中一時支援事業・施設外就労訓練事業・農水商校連携事業 ・スポーツ・外出・年中行事などのレクリエーション活動	月～金 9:30～16:00 土日祝祭日あり 年間事業日数 251日	・工房あおの丘(入善町道古) ・ラヴォーロあおの丘New ・ラヴォーロあおの丘with(入善町青木) ・施設外就労先事業所(入善町・黒部市)	スタッフ 39名 ボランティア延べ 41名	1. 県内在宅身体・知的障がい者(児) 2. 県内在宅精神障がい者 3. 県内在宅高次脳機能障がい、学習障がい等に該当する者 ※実績は、別紙1参照	161,006,000 円
②障がい者(児)の地域生活支援事業	・放課後等デイサービス事業・相談支援事業 ・レクリエーション施設などへの外出	月～金、土 9:00～18:00 年間事業日数 242日	・のびのbe-サポートあおの丘(入善町田ノ又) ・らいぶざ-サポートあおの丘(入善町上野) ・外出場所	スタッフ 15名 ボランティア延べ 0名	県内在宅身体・知的・発達障がい児の内 ※実績は、別紙1参照	26,410,000 円
③地域福祉の理解と啓発のための広報及び交流事業	・あおの丘マーケット(年1回) ・広報誌発刊	9月23日 6・9・12月・3月	入善町総合体育館	イベント・行事 ボランティア延べ 3名	延べ参加者32名 800部*4回	343,000 円
④人材育成事業	・専門学校・教育機関生徒実習受入 ・14歳の挑戦受入			0名 5名		0

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(円)
他事業所物品 販売事業	・実施せず					0